

## 日本臨床薬理学会「認定 CRC 通信」メルマガ =第 016 号=



「認定 CRC 通信メルマガ版第 016 号」2022 年の第 2 回目の発行です。

「第 43 回日本臨床薬理学会学術総会」会長の松本直樹先生から皆さまへのメッセージを掲載しています。



### \_1\_ 「第 43 回日本臨床薬理学会学術総会」へのお誘い

学術総会テーマ：「つなげよう、つながろう」

学術総会会長：松本直樹 聖マリアンナ医科大学 薬理学講座

主任教授/ 聖マリアンナ医科大学病院 治験管理室 室長

会 期：2022 年 11 月 30 日(水)～12 月 3 日 (土)

会 場：パシフィコ横浜

事前参加登録期間：2022 年 5 月 16 日 (月)～11 月 11 日 (金)

当日参加登録期間：2022 年 11 月 12 日 (土)～12 月 3 日 (土)

Web サイト：<https://www.congre.co.jp/jpw2022/index.html>



第 43 回日本臨床薬理学会学術総会会長を仰せつかりました聖マリアンナ医科大学・薬理学の松本直樹です。

認定 CRC の皆様におかれましてはコロナ禍での対応にお忙しくしておられる事と存じます。新型コロナウイルスが現れた 2019 年 12 月から数えて 3 年目になる 2022 年 12 月には、もっと落ち着いている状態を想定して学会を準備してまいりました。執筆現在、第 7 波に襲われておりますが、こんな 2022 年は

想像もしておりませんでした。基本対面での実施を予定しておりますが、これには根拠もありました。会議はオンラインで実施、遠方の学会でもオンラインで参加出来る便利さを享受し、すっかりオンライン生活には慣れました。でも CRC の皆様ならお判りの事と思います。やはり対面でお話する事に優るものはない、と。

学会の良さは久方ぶりに合う知己と杯を交わし、他愛も無い話の中からその人となりを知る事で信頼が醸成されて行く。セッションの合間に発せられる「本音」は、文字になったり電磁情報に乗って拡散されたりする事はなく、本当の本音であって、その価値は 1 回の学会参加に値するものである事を、私達は知っています。この 2 年のオンライン生活は、対面活動もないと駄目な事が判った期間でもありました。その意味で「つなげよう、つながろう」をスローガンに掲げたのです。

この 2 年の経験から、新型コロナウイルス拡散防止に重要な事は、会食の回避ですので、残念ながら懇親会などの宴席は設けません。臨床現場に感染を持ち込む事は絶対に避けたい所ですので、普段会えない知己との宴席も避けていただかなければならないかもしれません。しかしそろそろ本当に皆さんとお会い出来ないと、際限なく疎遠になってしまうのが恐ろしいです。

今回の学術総会は第 96 回日本薬理学会年会と同時期開催となっており、普段の日本臨床薬理学会とは異なる雰囲気です。しかし、基礎医学だけでなく「お菓の勉強が出来る学会にしたい」というテーマを持って、準備を進めました。日本感染症学会、日本小児臨床薬理学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本 TDM 学会、日本腫瘍循環器学会と言った臨床系学会との共催セッションを組みました。今回共催する学会とは、今後も継続的協働を模索しておりますので、今回の学術総会が「始まりだった」また日本薬理学会と協力しあって「クスリがわかる」シリーズを設定し、8 種類の領域について菓の事を基礎から臨床まで勉強出来るセッションを組みました。その他にも治験を支える基礎的知識を強化出来るような内容を増やすように考えています。教育セッションとシンポジウムの関連性を考え、設定する工夫も行いますし、また PMDA の本音が聞けるセッションも計画中です。臨床家の皆様のお役に立てる学会とするべく、鋭意準備中ですので、是非とも参加をお願いいたします。

今後の感染症状況は予断を許さないものがありますが、現地、パシフィコ横浜での会場設定が無くなる事はないと思われまます。とにかく感染状況が落ち着く事を祈るところではありますが、皆様の笑顔を学会会場で拝見出来る事を楽しみにしております。



## **\_2\_ (連載) 臨床薬理専門医から認定 CRC に対するメッセージ**

昭和大学 医学部 薬理学講座 臨床薬理学部門  
三邊 武彦 (さんべ たけひこ)

日本臨床薬理学会認定 CRC の皆さま、昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門で勤務している三邊武彦と申します。今回認定 CRC の皆様にメッセージをという貴重な機会を頂きましたので、私のこれまでの経験と CRC の皆様との関わりについて書かせていただければと思います。

私が臨床薬理に関わり始めたのは、浜松で開催された 2011 年 12 月 第



32回 日本臨床薬理学会学術総会に参加したあたりからでした。まだこの領域に足を踏み入れて10年ほどになります。当時、大学院生だった私は聖マリアンナ医科大学から昭和大学にお戻りになられた小林真一先生の主催する研究室（昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門）で漢方薬の薬物相互作用に関する研究をしていました。小林先生は、大学院の教授のほか、昭和大学臨床薬理研究センター（現：昭和大学臨床薬理研究所）のセンター長も兼務されていました。このセンターは第1相試験実施施設で44床の研究専用のベッドがあります。医薬品開発の治験だけでなく、早期探索的な臨床試験も実施しており、大学院生の頃からその最前線を学ぶことができました。現在の教授の内田直樹先生を現場の責任者として、治験に関わるさまざまなスタッフ（CRCや検査技師、ボランティア事務局など）の動き方を学ぶことができました。大学院生の時に、白人対象のFirst in Human試験を経験することもでき非常に運がよかったと思います。学問としての臨床薬理学については、小林先生に日々鍛えていただき、CRCの方とは日本臨床薬理学会の学術集会やCRCと臨床試験のあり方を考える会議など、さまざまな場面で交流の機会をいただきました。CRC創設期の方ともお話しする機会をいただき、CRC立ち上げの歴史のほか、各医療機関の状況、キャリアパスについてなどCRCが抱える悩みごとについても共有いただきました。昭和大学という臨床薬理の盛んな場所にいたからこそ、今の自分があるなと思っております。現在は、大学全体の研究を促進する昭和大学統括研究推進センター立場となり倫理委員会に関する業務や産学連携に関する業務なども含めて昭和大学には附属病院を含めて、26名のCRCがおり、そのうち6名が認定資格を持っております。認定を持っていながらキャリアチェンジの際に資格を失効してしまうものもおります。治験依頼数にムラがあってもCRCの配置数は変わらないとかライフイベントによって人員が増減するという難しい問題に直面するのを目の当たりにしてまいりました。

このような状況の中、日本の臨床研究・治験の促進のためには、CRCのキャリアの幅を広げていく必要があると思います。臨床薬理学会では、認定CRCの上位の仕組みとして、アドバンスCRCの制度を見直し、臨床研究専門職認定制度設立に着手し始めました。臨床研究の専門家として臨床薬理学、疫学の知識に立脚した練磨された技能をそなえた優れた者を社会に送り出し、日本の臨床研究の基盤強化、仕組み創りに貢献することを目指すもので、質の高い臨床試験の実施に必要な知識・技術等を備える者を「臨床研究専門職」として日本臨床薬理学会がその能力を認定するものです。

将来的には、本制度をキャリアアップのプロセスの一つとして活用していただければと思っています。CRCの皆さんには多様性があります。現在認定CRCをお持ちの方で、さらにスキルアップしたい方だけでなく、CRCとして勤務するのが難しいなと感じている方も本制度の内容の詳細をご確認いただき、ご自身の得意な部分、必要とされている部分をさらに伸ばして日本の治験・臨床研究の発展に寄与していただければと思います。



### **\_3\_ 日本臨床薬理学会が認める研修会・講習会**

以下のURLで確認できます。

[https://www.jscpt.jp/seido/crc/kensyu\\_list.html](https://www.jscpt.jp/seido/crc/kensyu_list.html)

<日本臨床薬理学会認定CRC制度運用細則> 更新に向けて、こつこつポイントを貯めましょう！

<https://www.jscpt.jp/seido/crc/saisoku.html>



## **\_4\_ 「第 29 回臨床薬理学講習会」のお知らせ**

臨床薬理学講習会は、毎年、日本臨床薬理学会学術総会に合わせて開催されている講習会です。認定薬理専門医、認定薬剤師の先生方も参加され、認定 CRC の受験・更新の単位も取得できます。

今年度は、専門医制度委員会、認定薬剤師制度委員会および認定 CRC 制度委員会の合同開催となりました。テーマは「がん薬物療法を受けている患者を診る」で、とても興味深い企画内容です。日本臨床薬理学会学術総会と合わせてのご参加を、是非ご検討ください。多くの CRC の皆様の参加を期待しています！

### **第 29 回 臨床薬理学講習会**

開催日時：2022 年 12 月 4 日（土）10 時～16 時

開催形式：web 開催

テーマ：がん薬物療法を受けている患者を診る

※プログラムおよび参加申し込み方法は、準備が整い次第、学会ホームページでご案内いたします。

学会ホームページ：URL：<https://www.jscpt.jp/gakujutsu/kousyu.html>



## **\_5\_ 新たな情報提供**

最近のトピックスなど、新たな情報は、こちらを定期的にご確認ください。

### 1. 厚生労働省 治験

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/chiken.html>

### 2. 厚生労働省 臨床研究法

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html>

### 3. 厚生労働省 研究に関する指針について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

### 4. 日本臨床薬理学会 行事・日本薬理学会主催研修

<https://www.jscpt.jp/>

### 5. 日本臨床試験学会 学術集会・教育セミナー

<https://www.j-sctr.org/seminar/index.html>

### 6. 日本医師会治験促進センター 会合のお知らせ（会合・各種研修会）

<https://www.jmacct.med.or.jp/Public/PublicMeetingList.aspx>

### 7. 個人情報保護委員会 FAQ

<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/contact/>



## **\_6\_ 求人募集情報**

日本臨床薬理学会の Web サイトには CRC やデータマネージャーなどの求人募集が掲載されています。正職員の募集も増えています。

<https://www.jscpt.jp/recruit/index.html>

新たな職場を探されている方や転職を検討されている方は、ご活用ください。



## **\_7\_ 認定 CRC 更新**

詳細は日本臨床薬理学会のホームページをご確認ください。

<https://www.jscpt.jp/seido/crc/koushin.html>



## **\_8\_ 認定 CRC 通信メルマガ版 バックナンバー**

過去に配信されました認定 CRC 通信メルマガ版は、こちらからご覧になれます。

<https://www.jscpt.jp/seido/crc/melmag.html>



## **編集後記**

秋冷の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年も昨年同様、猛暑、大雨、新型コロナウイルス感染症と大変な夏を過ごされたことと思います。こういった非常事態を経験すると、BCP（事業継続計画）の意識が一段と高まります。

さていよいよ、今年も秋の学会シーズンがやってきます。11月30日～12月3日にパシフィコ横浜で開催される「第43回日本臨床薬理学会学術総会」は、「第96回日本薬理学会年会」と同時期開催であり、事前参加登録は11月11日までとなっております。皆様、奮ってご参加ください。

この「認定 CRC 通信」をより良い通信に育てていくために、皆様のご意見・ご希望を学会事務局までお知らせください。今後とも認定 CRC 通信へのご支援のほどよろしくお願いいたします。

なお、認定 CRC 通信メルマガ第16号の掲載情報は9月27日現在のものであり、新型コロナウイルスの影響を受けて、情報が今後更新される可能性がありますことをご了承ください。

認定 CRC 通信編集委員会



## **★編集・発行★**

発行日：2022年9月27日

編集：認定 CRC 通信編集委員会

石山 薫、難波 志穂子、深川 良美、山田 奈央子、若林 薫（五十音順）

発行：日本臨床薬理学会 認定 CRC 制度委員会

発行人：認定 CRC 制度委員長 前田実花

## **★今号の写真★**

提供：難波 志穂子「お祭りハッピーでルンルン♪」

ひとこと：松江フォーゲルパークには、ハシビロコウをはじめとする珍しい鳥がたくさんいます。今

回の写真は、ケーブペンギンのお散歩。季節によって変わる衣装も見どころで、かわいいハッピー姿に癒されました。暖かいところにペンギンがいるのはなにか不思議な気がします。喜望峰やインド行き航路を発見したヴァスコ・ダ・ガマ一行が同ペンギンについての記録を1499年に残しており、歴史上で初めて人に記録されたペンギンなのだそうです。目にする動物や植物などのルーツや歴史を知るのは楽しいですね。

目にしたことを少し調べると新たな発見があって、日常のワクワクが増すような気がします。

※本通信のトップページに掲載する写真やイラストを、読者の皆さまより募集いたします。

応募いただける方は、[clinphar@jade.dti.ne.jp](mailto:clinphar@jade.dti.ne.jp) へ、メール添付にて写真をお送りください。

認定CRC通信編集委員会にて選定し、採用された方にのみご連絡させていただきます。

なお、掲載用に編集される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

ご自身でサイズ調整される方は、851×315pxにしてください。

### ★臨床研究部門紹介の投稿募集★

「臨床研究部門紹介」企画に次回以降ご投稿いただける施設や組織(SMOなどの企業も投稿可能です)を募集いたします。読者の皆さまより「この施設はこんな素敵な取り組みをしているので、記事を掲載してほしい」「自施設ではこんな目新しい取り組みをしていますので、掲載を希望します!」など、自薦他薦を問いませんので、臨床研究や治験部門の紹介を希望される施設をご推薦ください。

推薦いただける方は、[clinphar@jade.dti.ne.jp](mailto:clinphar@jade.dti.ne.jp) へ、下記の応募事項を記載のうえメールにてご連絡ください。なお、他薦も可能ですが、必ず推薦する施設より内諾を得たうえでご応募ください。

応募者多数の場合は、認定CRC通信編集委員会にて選定して、選定された応募者の方にのみご連絡させていただきます。

#### 【応募事項】

- ・ 応募者の氏名、所属機関名、連絡先(電話番号・メールアドレス)
- ・ ご推薦いただく機関名・部署名
- ・ 推薦施設の窓口担当者(投稿記事を取りまとめいただける方)の氏名、連絡先(電話番号・メールアドレス)
- ・ ご推薦いただく部門の特徴・推薦理由(300字程度)

### ★連絡先★

一般社団法人 日本臨床薬理学会(事務局)

メールアドレス [clinphar@jade.dti.ne.jp](mailto:clinphar@jade.dti.ne.jp)

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル

TEL : 03-3815-1761、FAX : 03-3815-1762

URL : <https://www.jscpt.jp/>

※本メールに返信されても内容を確認することができません。

回答が必要な場合は、日本臨床薬理学会事務局までご連絡ください。

**★連絡・相談、メールアドレス変更、配信停止★**

日本臨床薬理学会事務局にメールにてご連絡ください。

■ 記事の無断転載はお断りいたします ■

